

## 自由民主党笹川総務会長の発言に対する日本うつ病学会理事会見解

自由民主党の笹川亮総務会長が、2009年3月14日、大分市で行われた党大分県連大会の講演において、教育問題を語る中で、「今、学校の先生でもうつ病で休業している先生たくさんいらっしゃるでしょ？国会議員の中には1人もいませんよ。そんな気が弱かったらつとまりませんから」と発言したとの報道が、15日になされました。

確かに、教師にうつ病による休業者が少なくないことが問題となっています。しかし、教師のうつ病の背景には、教育現場におけるさまざまな問題と、それに伴うストレスに起因する脳機能障害など、多くの要因が関与しております。うつ病による休業を、「気が弱い」と表現することは、うつ病の原因が本人にあるかのような誤解を招く可能性があると思念されます。また、国会議員の中にうつ病であることを公表している方はいないかも知れませんが、これまでに現職閣僚を含め、12名の現職国会議員が自殺しています。自殺者の約半数が直前にうつ病を有していたとの調査結果（自殺実態白書 2008）から考えると、うつ病は国会議員でもかかりうる疾患であり、職業に関わりなく、また精神力の強さと関係なく、誰でもかかりうる疾患であると言わざるを得ません。

しかしながら、19日には、笹川総務会長が「教職員のうつ病は日本の大きな問題の一つ。対策を考えたい」と述べたと報道されていることから、会長がうつ病が大きな問題であると認識しておられることもわかりました。

今後、うつ病が日本の国家的課題であるとの認識をさらに深めていただき、うつ病の早期発見・早期治療、予防、理解増進、原因解明、および診断法・治療法の改善などの総合的な対策に取り組んでくださることを望みます。

平成 21 年 3 月 31 日  
日本うつ病学会理事会